鍛えよう　若き日を

令和３年度　No.２

掛西だより

静岡県立掛川西高等学校

新しい教育と教育の価値

副校長　伊藤　裕啓

先日、本校に視察に来られた私立高校の先生がおっしゃっていたことだ。昨年のコロナによる休校の際、その高校でも本校と同様にリモートでの授業を行ったそうだ。休校明け、ある成績優秀な生徒が先生に向かってこのような趣旨のことを言ったらしい。「リモートでこのような授業ができるのなら、もう学校という場は必要なくなりますね」と。この言葉を聞いてその先生がどのような反応をしたかは定かではないが、それを会議の席上で聞いた私は「これはヤバい」と思った。

最近は本校のようないわゆる全日制の学校ばかりでなく、通信制の学校もたくさんある。ある通信制高校などは定員をはるかにオーバーしたため定員増をしたと聞いた。通信制高校とは本来、経済的理由などで全日制高校に通うことのできない人が家にいながらにして学び、高校卒業資格が得られる高校である。近年は不登校などで全日制高校に通えなくなった生徒が多いと聞く。一方でもっと積極的な意味で、つまり通信制高校に入りたくて入る生徒も相当数存在するらしい。その中にはかなり優秀な生徒もいると聞く。私はそのような学校と本校のような学校とで、優劣をつけるつもりは全くない。通信制高校には通信制高校の意義と役割があり、本校には本校の意義と役割がある。

ただ、冒頭で紹介した私立高校の優秀な生徒さんの言うとおりだとしたらどうだろうか。本当にリモートで素晴らしい授業ができて、生徒の学力が大いに伸長し、みんな自分の望んでいる進路に進むことができれば、全日制高校の存在意義が問われかねない。全日制高校の副校長としては、「これはヤバい」と思うのだ。

教育だけでなく、世の中の変わりようも激しい。コロナの影響で在宅ワークが一般的になり、オフィスがない会社もすでに数多くあるらしい。対面販売の店はどんどんなくなっていて、ネットで注文すれば次の日の朝には玄関まで荷物を届けてくれる。しかも、この辺の店で買うよりはるかに安い。ネットやリモートがこの世を席巻しているというと言い過ぎだろうか。

会議の席上、私立高校の先生は新しい時代には新しい教育が必要だと言った。確かにそうだ。時代は変わっている。教育も新しい時代に対応した新しい教育をすべきである。しかし、一方で、本当にそうなのかとも思う。時代がいくら変わっても絶対に変わることのない教育の価値はあるのではないか。そんなことも思う。

そもそも、学校という器が果たすべき役割というものは何なのだろうか。もちろん、学校は学業を学ぶ場であり、これが第一義であることに間違いはない。しかし、もちろんそれだけではないのは誰もが知っていることだ。部活動に情熱を注いでいる者や生徒会活動に生きがいを見出している者は大勢いる。そして、それらの価値は学業に劣ることはない。むしろそちらの活動の方が大人になってからは記憶に残るし、私などは高校時代に掛西野球部に所属していたという経験が社会人としての素養に大きく貢献しているような気もしている。

リモートでも確かに授業をすることはできる。本校でも昨年の休校時、リモートで動画配信の授業を行ったが、これはあくまでもコロナ禍という特殊な状況での緊急的な措置であり、次善の策であった。何が最善なのかは言うまでもないだろう。たとえ双方向の授業であってもリモートと対面の授業では全くその価値が違うと私は考える。

講義一辺倒の一方通行の授業ならリモートでも成立するだろうが、授業は生徒と教師の信頼関係の上で成り立つものである。教師が一人ひとりの生徒に微妙なニュアンスを伝えたいときもある。生徒の聞こえるか聞こえないかのつぶやきを耳にして授業が深まりを見せ、驚くような良い授業ができることもある。教師と生徒が目と目で合図して授業を進めることもある。あふれるような教師の情熱や、クラスみんなのやる気に満ちた雰囲気にお互い感動することもある。これらはリモートでは伝わりにくい。授業は生きているのである。生徒の反応を見て教師は授業の方法を縦横無尽に変える。今、どんな言葉を使って、どんな口調で、どんな発問をするか。授業は教師と生徒の間の、有機的でダイナミックな生きる営みである。

まして、学校という器の中で行われている人間としての営み――生涯の友人を作ることだったり、学校祭でクラスの友人たちと夢中になって何かを作り上げる体験だったり、誰かに恋をしてその感情を心の中に育むことだったり――そのような、学校生活で多くの生徒達が当たり前にできていることは、デジタル回線を通してでは絶対にできないと思う。これが学校という場の真の価値であり、教育の本質でもある。あるいはこの価値は第一義である学習活動よりもかけがえがないという点において尊いのかもしれない。

冒頭で話の出た私立高校の優秀な生徒さんも、もちろんそのようなことは御承知であろう。しかし、本気で「学校は必要ない」と思っているのだとしたら、なんと味気ない高校生活を送っているのだろう。「ヤバい」のは全日制高校の行方であると同時にその生徒さんの思考そのものであり、そのような思考しかさせられない社会や教育の在り方である。私たち教員は、いや、私たち大人は子どもに関わり教育していく者として、むしろそのことを憂うべきであり、そのような社会や教育の在り方について考えていくべきであろう。

アリスと赤の女王

教務課長
山﨑一憲

昨年度から今年にかけて、新型コロナウイルスによって私たちの生活のなかで変化してきたことがたくさんあると思います。このウイルスは、イギリス株、インド株、デルタ株、ラムダ株、ミュー株そしてオミクロン株など次々と変異型がでてきており、今の日本では感染者数が減少しているとはいえ、世界規模ではなかなか終息が見込めない状況は知っての通りです。〝コロナウイルス〟にしてみれば生き残るために、我々人類が打ち出す策の先を進むべく、次々と変異を起こしている状況なのです。このような考え方を、進化生物学的な見方では「赤の女王仮説」と呼びます。

この「赤の女王」は、ルイス・キャロルの「鏡の国のアリス」に登場するキャラクターの一つです。物語の主人公アリスは〝丘のてっぺん〟に行く途中で、赤の女王と出会います。アリスは女王に「どこから来たの？どこへ行くの？」と聞かれ、自分の道が分からなくなったことを説明します。その後、女王はアリスの手を取って走り出します。どんなに速く走っても、何も追い越していないみたいに周りの景色は元の場所から全然変わりません。それでも女王は「もっと速く、もっと速く！」とアリスをひっぱって走ります。さらに「同じ場所にとどまるためには、思いっきり走らなければならないの。どこか別の場所に行きたいなら、少なくともその二倍速く走らなきゃ！」と伝えます。

話は変わりますが、これからの時代は社会構造や雇用環境が大きく変化し誰も経験したことのない時代の到来と言われています。私たちも変化していかなければ、時代に遅れるどころか、維持することもできなくなりそうです。「自分は変化しているのだろうか？」と不安になることもあります。掛川西高校では、目標設定と振り返りの場が多く設けられており、これにより自分の変化（成長）の様子を見てとることができます。例えば、学びの記録として各学期始めに目標を設定し終業式の時に振り返りをしています。また、学習スケジュールでは一ヶ月の目標を立て毎日の学習を記録し、定期試験の目標を記入しています。授業では授業目標があり、振り返りシートへその授業で学んだ重要なことの記入をしています。目標や願いなどの思いを頭の中にとどめておくだけでなく、形あるものとして外に出すといろいろなことが輪郭をもってはっきり見えてきます。自分自身が目指す丘であったり成長している様子が分かるはずです。日々の変化は小さくても、その小さな変化が積み重なれば、いつしか大きな成長を遂げていることでしょう。皆さんには、まずは授業での振り返りを大切にして欲しいと思います。各授業で振り返りとして記入する新しく学んだことは、自分自身の成長の証なのです。

この道だ！と思い、〝丘〟に向かって走り続けてもなかなか〝丘〟にはたどり着けないものです。走り続けたアリスに、赤の女王は優しく「さ、少し休んでいいですよ」と言います。休むことも、〝丘〟へたどり着くために必要なことを女王は知っているのですね。

「知の宝庫への誘い（いざな）」

図書課長
浜浦麻里子

本校の図書館は、管理棟西側にある階段を４階まで上った先にあり、教室棟から少々離れているため生徒の往来が少ないのですが、時間帯によっては多くの生徒が続々と集まってきます。始業前の１時間ぐらいと昼休みです。早朝は７時15分から開館しています。電車やバス時間の関係で早くに登校していたり、始業までの時間を有効活用して学習時間を確保しようとやってきたりする生徒であっという間に満席になります。昼休みは、早々に昼食を済ませた生徒が、参考書を片手にやってきます。

高校の図書館に３万冊以上もの蔵書を所蔵するのは県内の公立高校の中ではかなり恵まれた環境にあると言えます。その約３万冊の書籍も古本から新着本へ定期的に入れ替えが行われています。図書課に配属されて書籍の管理に関わるようになり、改めてその多さと種類の豊富さに圧倒されます。フィクション、ノンフィクション、自伝、一般常識、シリーズもの、哲学、文学、歴史、生活科学等、様々な分野の書籍に加え、料理やスポーツの雑誌などが所狭しと並んでいます。

卒業生が執筆したもの、西高生に読んでほしいものを集めたコーナーもあり、また本校の職員のおすすめ本にはゴールデンベルトが巻かれています。英語関連の書籍も充実しています。中でもオックスフォード出版の高校生でも手軽に読めるサイドリーダーなど約１０００冊もあります。個人で購入しようと思ったら相当の金額になってしまいますが、自由に好きなだけ読むことができるのは何とも贅沢なことです。その図書館を在学中に活用しないのは非常にもったいないことだと思います。

本校では、図書委員会の活動も活発です。できるだけ多くの生徒たちが書籍に親しむことができるように、年間を通して様々なイベントを用意し読書の機会の充実を図っています。具体的には、古本市、読書会、選書ツアー、かるた会、図書だよりや図書館報の発行があります。

２年ぶりの開催となった古本市では、約１５００冊の本を用意しました。今年度の売上金は、竜巻等の突風により甚大な被害を受けた牧之原市支援のためにすべて寄付しました。

年２回開催される読書会では近年ビブリオバトル（書評合戦）形式を取り入れています。「ビブリオ」は書物などを意味するラテン語由来の言葉で、「ビブリオバトル」とは、京都大学の輪読会から始まり、立命館大学情報理工学部の谷口忠大教授が考案したゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの「書評合戦」です。ビブリオバトラー（発表者）たちがおすすめ本を持ち合い、１人５分の持ち時間で書評した後、バトラーと観客が一番読みたくなった本、「チャンプ本」を決定します。

選書ツアーは学期ごとに企画、実施しています。放課後、掛川市内にある書店へ直接出向いて、生徒が書籍の選定を行います。各々が図書館に入れたい本を選ぶこと

ができます。購入代金はすべて学校持ちです。第1回目は7月に実施しました。20人もの生徒が参加してくれました。

本年度のかるた会は来年の1月6・7日に冀北会館1階の畳の間で予定しています。各クラス代表者4人によるクラス対抗戦で行います。

２０１９年12月初旬に、ある町で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった新型コロナウイルス感染爆発から早くも2年の月日が流れようとしています。「来年の今頃はきっと元通りになっている」という予測を励みに前向きな気持ちを持ち続けようとするも、なかなか事態が改善していかない状況が続きました。先行きが見通せず、大きな不安と焦りに囚われる、そんな心の非常事態の中で、読書は先人の知恵を授けてくれたり、生きるヒントを与えてくれたりする心の拠りどころとなります。作品の中の言葉に慰められ、救われ、折れそうな心を支えてもらうことが多いことと思います。

図書館は、利用目的は様々ですが、カーテンを全開にすると眼下に掛川の町が遠くまで一望できる場所で伸び伸びと学習し読書してみるのも悪くないと思います。入学してまもなく行われた図書館オリエンテーション以来、図書館から足が遠のいてしまっていた人も、今一度その良さを見直し、図書館へ足を運ぶことを習慣にしてみてはどうでしょうか。

見方（味方）を増やす！

教育相談
福田れい子

つい先日、「先生、何歳？」と直球勝負で質問を投げてくる生徒がいました。年齢を知ってどうしたいの？という疑問と、年齢を聞いたり聞かれたりする場面は色々なところで見受けられるということを改めて思い出しました。

テレビでは、元気な高齢者の方に年齢を尋ねて、「お元気ですね。」とか「お若いですね。」など、一種の誉め言葉につながるような展開が見える質問となっていますが、今回の質問の様子では期待できなかったので、「教えません。」と答えました。年齢より若く見えるとか、老けて見えるというのは、自分の中で、「○歳の人のイメージ」をそれぞれ持っていて、その基準に合わせて考えているからなのでしょう。○歳の姿というのは、しっかりとした基準はなくて曖昧なものです。

虹を絵に描いた時、多くの人たちは七色で表しますが、海外では六色や五色、二色などで表される国もあるそうです。虹の色は、そもそもグラデーションであって色の境界線もないので、とらえ方によって見え方も変わるということのようです。また日本では、赤色も、紅色や朱色、緋色のように表す言葉が数多くある事も関係しているのかもしれません。

物理的に全く同じものを見ているのに、とらえ方によって見えるものが異なるということは、多くの場面であるのではないでしょうか。人に対しても同じように意識すれば、一人の人の見方も変わります。見方を変えることで、短所が長所になるということです。

例えば、大人から見れば、高校生の皆さんはまだまだ「未熟」ですが、一方で「可能性を秘めている」とも言えます。また「優柔不断な人」と言われたら短所かもしれませんが、「思慮深い人」と言われれば長所ととらえることができます。「皆と考え方が異なる」というのは、「個性的で斬新」と言えます。

人それぞれの感じ方や考え方、見方が異なるということを胸にとどめ、多くの人と関わることができれば、人間関係のストレスも少なくなるのではないかと思います。

「誰かに何か言われても、自分にも良いところがあると気づいていれば、人は美しく輝きだす」

「幸せや心の自由は自分のものの見方にかかっていることが多い」と渡辺和子さんは著書で述べています。

最後に、今年度のスクールカウンセラーの来校日を月に二回としました。予約で一杯になっていることも多く、相談の件数は昨年度よりも増えています。

相談室の役割は、皆さんの話や気持ちを聞かせてもらい、一緒に考えたり、整理したりする場所です。人にはそれぞれ抱えている思いや悩みがあります。時々、「こんなこと相談したり、聞いたりしてもいいのですか。」と聞かれることがあります。抱えている悩みに、大きい小さいも、重い軽いもありません。ぶつかった問題に出した答えが、正しいか間違いか、ということもありません。その時その時で、より良いと思うものを一緒に探して、答えを選んでいけたらよいなと思っています。

皆さんの話を聴くことが相談室の役割ですから、どのようなことでも話に来てくれることは嬉しい事です。困った時や苦しい時に、ＳＯＳを自ら発信する力は、今後社会に出ても必要な力だと思います。

自立とは、自分の力でしっかりと生活を送り、人生の様々な場面での選択を自分でしていくこと。でも、自分一人だけでは生きていくことはできない、助けたり助けられたりするものだ、と知っていることだと思います。

皆さんの成長のための力になればと思います。

成果をあげる目標のたて方

３年副主任
大橋雅則

高校や中学校では、よく文武両道とか学習と部活動の両立をなんて言葉を耳にします。また、本校のようないわゆる進学校では、文系の人も数学や理科を、理系の人も国語や社会をしっかり学習して5教科7科目できるようになろうなどとよく言われます

最近、二つのことを両立してすごいという人がいました。米メジャーリーグのエンゼルスの大谷翔平選手がＭＶＰを受賞しました。受賞の主な理由は投手および打者としてともに素晴らしい活躍をしたところ、いわゆる二刀流（今年の流行語大賞かも）が評価されてのことでしょう。野球に詳しくない人もいると思うので、少し補足すると、ＭＶＰとはMost Valuable Playerの略で日本語では最高殊勲選手と訳されます。米メジャーリーグではアメリカンリーグとナショナルリーグの２つのリーグがあるので、

大谷選手はチームが所属するアメリカンリーグのＭＶＰです。簡単に言えば今シーズンにアメリカンリーグで一番いい選手だったということです。しかし、今シーズンの大谷選手の記録は、投手としては９勝２敗、打者としては打率２割５分７厘、ホームラン46本で、それぞれのリーグ１位が16勝、３割１分９厘、48本でした。本塁打以外は突出してすごい記録を打ち立てたわけではありませんでした（本塁打は途中まで１位でしたが）。所属チームも地区４位で勝率も５割に届きませんでした（日本のプロ野球では個人記録よりもチームの優勝に貢献した選手がＭＶＰを受賞する傾向にあります）。それでもＭＶＰ選考の投票では満票で選ばれました。それだけ二刀流すなわち投手としても打者としても一流であるということが難しいということです。実際に過去に同等の活躍を見せたのは百年前にベーブルースが10勝かつ２桁本塁打をしたくらいだそうです。人によっては「えっ高校野球では、エースで中心打者いることが多いじゃん」と思うかもしれません。確かに毎年のよう素晴らしい野球センスを持つ選手はいますが、そういう人たちが集まるプロスポーツの場では、投手か野手かどちらかに絞ってやってゆかなければ通用しないほどの厳しい世界なのだと思います。

なぜ、大谷選手だけ投手と打者の両立できたのを考えると冒頭の何かをうまく両立させることへのヒントになるかもしれません。彼はプロに入る前から二刀流を表明していました。これに対して、プロ選手のＯＢや解説者のほとんどが両方なんて論外で投手に絞った方がよいとか、打者で行くべきだとか否定をしていました。投手としてやってみてだめだったら野手へ転向すればよいという人もいました（余談ですが、イチロー選手や松井選手、落合監督（当時）は二当流を肯定していました。特異的な記録を残した人だけが肯定的だったことは非常に興味深い）。彼は高校からプロに入ったのですが、18歳の彼の耳にも当然こういった声は聞こえていたはずです。しかし彼は強い信念を持って、周りの否定的な声を気にせず取り組み続け、数年後世界一（というか前人未到）になりました。プロに入って何年後かに、何かのインタビューで彼が話していたのは、何勝するとかヒットを何本打つという目標は定めていなくて、こういうボールを投げるようになるとか、こういう打撃ができるようにするというように目標を定めいるということでした。さらにその達成のために何をすべきかを考えて取り組んでいるということを聞いた覚えがあります。目標が非常に具体的でかつ細分化されているのです。もちろん具体的な目標設定をして取り組んでいる人はいますが、大谷選手の場合は特にそのことが徹底されていたことと、そこへの自己評価が的確で、細かい目標を段階ごとにその都度再設定して取り組んでいるとのことでした。ヒットを何本打つというようなあいまいな目標であると打てないときの解決策は見つけにくく、そうなったときに非常に迷い悩むことになりますが、具体的で部分的な目標であれば、達成されているかどうかの自己評価がしやすく修正も可能で、さらに、ここはダメだが、ここはよいというように、すべてがダメということが起こりにくいので、自己評価して次を考えることが優先されて、精神的に不安になることが少ないのではと思われます。また、これは投手としての目標、打者としての目標というすみわけもなくそれぞれが細分化された目標のうちの一つであって、彼の中では別のことやっているという感覚はないのではないかと思います。きっと彼の中では、なんとなくやるとか、これだけ頑張ったからよしとするなどと常人が持ちがちなあいまいな観点はないのではないのでしょう。こういったことの積み重ねが、人並外れてできているからこそ彼は成功したのだと思います。もちろん選手として、それに耐え得る体力や野球センスを備えていなければ成功どころか取り組むこと自体が無理ですが、彼の言動を観ていると自身の体の状態への自己分析すら非常に的確なのではと思います。彼のすごさは揺ぎ無い信念と継続する力など、精神面にあるだと思います。

３年生の担当だと、「この科目が時間かけて頑張っているけど模試の結果が悪くて不安になる」ということを耳にすることがあります。そういう人は、彼のように目標やるべきことを具体化して取り組んでみたらどうでしょう。リストアップしてみたら多すぎて辟易とすることもあるかもしれません。でも、漠然とした不安からは解放されると思います。また、リスアップしたことがすべてできなくても構いません。大事なことは、いまの時点からどれだけ伸ばすということで、ひとつでも多く目標がクリアされればよいのです。結果はあとからついてくるものです。

この世の中で旅に出るということ

２年副主任
佐野正裕

「十月の沖縄は夏が残っていて、海と空と雲がきれいなコントラストを作り出していました。相変わらず美ら海のサカナたちは優雅で、異なる時間が流れているようでした。」という文章を書こうと思っていたのですが、残念ながらまだ修学旅行は実施されていません。この旅行を担当している方々は状況を見極めながら調整を繰り返しています。修学旅行は大きな行事ですし、生徒のためにもなんとかしてあげたいという気持ちが強く感じられます。しかし私はその熱心さの中には、どうもそれ以上の何か、『とにかく旅に出よう』という切実な何かがあるような気がしてなりません。

人は移動する生き物だと言われています。確かに、はるか遠い昔から活動範囲を拡げ、海を渡り山を越え、貪欲に移動を繰り返しているように見えます。また、移動するための手段を数多く開発し、空を飛び、さらに高速で遠くまで行こうと必死になっています。

しかし、近年の情報通信技術の発達により、これまで移動するための理由としていたものが、そうではなくなりつつありました。その場所に行かなくても事足りるようになってきたからです。作家の森博嗣は作中人物に「人と人とが触れ合うような機会は、贅沢品です。エネルギィ的な問題から、そうならざるをえない。人類の将来に残されているエネルギィは非常に限られていますからね。地球環

境を守りたいなら、人は移動すべきではありません。」（注１）と語らせています。

とは言え、人の習慣は簡単には変えられませんし、心の持ちようもそうです。いずれはこのようなことを真剣に考えなくてはならない時が来るのかもしれませんが、まだまだその状況を受け入れる用意が人にはないように思っていました。ところが、そんな用意を待つこともなく、急激に世の中は変わってしまいました。変わらざるを得なかったというのが正しいでしょうか。そして、どうにもならない状況で仕方なく受け入れた結果、これまで移動の理由としてきたことが、必ずしも必要ではなかったことに私たちは気付いてしまいました。特にビジネスの世界では、肯定的に捉えられていることも多く、どうやら現在の状況がこの先も継続されそうな雰囲気さえあります。

さて、だからこそ旅の重要性が増したといえるでしょう。その場所に移動しなくてもたいがいのことは事足りてしまうことに人が気づいてしまった世界だからこそ、旅をするという理由しか移動の言い訳にはならないのです。沢木耕太郎の深夜特急には旅に出る理由として、こんな一節があります。「人のためにもならず、学問の進歩に役立つわけでもなく、真実をきわめることもなく、記録を作るためのものでもなく、血沸き肉躍る冒険大活劇でもなく、誰にでも可能で、しかし、およそ酔狂な奴でなくてはしそうにないことを、やりたかったのだ。」（注２）

人は移動したい。それには旅しかありません。さらに言えば「読書は読む前から始まっている」（注３）という言葉と同じように、旅は行く前から始まっているし帰ってきた後も続いています。これからしばらく、この贅沢な時間を楽しく過ごしましょう。（と、ゴチャゴチャ書きましたが、修学旅行が無事に実施されて安全に楽しくいって来られると良いなぁと思っています。）

注１『すべてがＦになる』（森博嗣）
注２『深夜特急１』（沢木耕太郎）
注３『罪と罰を読まない』（岸本佐知子・三浦しおん・吉田篤弘・牛田浩美）

「強い気持ちをもって」

１年副主任
多々良昌輝

一年生が入学したと思ったら、新しい年が近づいている。一年を振り返ると、今年もコロナに振り回された一年だった。夏には緊急事態宣言が発令され、体育大会や修学旅行など学校行事が延期された。世の中に目を向けると、一年越しで東京オリンピックが無観客で開催された。卓球のミックスダブルス優勝、野球、ソフトボール優勝など自国開催で大いに盛り上がった。オリンピック期間中はテレビをつけると、大体オリンピックが映っていた。おかげで今まで知らなかった競技にも興味を持ついい機会になった。

東京オリンピックが終わると、パラリンピックもテレビ中継されていた。私はテニス部の顧問ながら、初めて車いすテニスの試合を見た。その試合はちょうど決勝戦だった。優勝した国枝選手の試合を見て衝撃を受けた。座って打っているとは思えないサーブ、一球一球に対する気迫、本当に凄くて圧倒された。男子テニス部の部員が戦ったら、間違いなく誰も勝てない。

優勝した国枝選手は試合後のインタビューで「とても大きな〝重圧〟がかかっていました。だからこそ、勝利の瞬間、涙が出た。」と答えている。

パラリンピックという大会を少し勘違いしていたかもしれない。障害を持ちながら、それを乗り越えて頑張っている人たちが出る大会だと思っていた。しかし、彼らは障害を全くと言っていい程に感じさせず、アスリートとして戦っていた。逆境を乗り越えたというレベルではない。こんな超人がいるのかと驚き、自分も小さなことで落ち込まず、頑張ろうと思った。

彼の東京パラリンピック優勝までの経歴を少し調べてみた。９歳の時に脊髄の病気で下半身が不自由になり車いすテニスを始める。２００６年には世界ランキング一位となり、王者街道をまっしぐらに進んできたが、２０１６年に右ひじを痛め怪我に悩まされる。そこからはなかなか勝てず、リオ大会でも、再び痛みがぶり返し準々決勝で敗退した。引退も考えたが、ひじに負担がかからないフォームを研究し２０１８年に再び、世界ランキング１位に返り咲く。そうして、三十七歳を迎え東京パラリンピックに臨んだのだった。

彼は試合後のインタビューの後半でこうも言っていた。「最後はメンタル勝負になると、経験上わかっていました。そのメンタル勝負に勝ち切った。枯れるほど、涙が出てきたと思います。」

勝負事でのメンタルは本当に大事だ。身近な場面でいうと、部活動の公式戦や入試本番など、それまで努力してきたものを発揮する場面だ。そこに向けて費やした努力が大きければ大きい程、本番では緊張という重圧が重くのしかかってくる。

部活動の大会を見ていても、ミスを恐れて弱気になってしまい、練習してきたことをできなかったとか。テスト中に、「あれ？あの公式何だっけ？」となって頭が真っ白になってしまったとか、そういう経験はよく聞く。本番という緊張する場面で重圧に勝つことは容易ではない。

世界の舞台で戦うアスリートは本当にすごいと思う。実は国枝選手のラケットには「おれは最強だ！」と貼ってあるらしい。弱気になったときにはそれを見ているそうだ。なんだか少しかわいい。不屈のメンタルを持っているように見えて、強い気持ちを持てるように準備をしているのだろう。本番の重圧と戦っているのだろう。

掛川西高生にとって大事な戦いはやっぱり大学入試だと思う。本番までには、定期テストや模擬試験など練習試合みたいな戦いがある。勉強したのに結果がでないと諦めたくなることが必ずある。三年間でそれがない人は逆におかしい。そんなときに「自分はできる」という強い気持ちを持って努力を続けてほしい。スマホという誘惑に負けてしまって勉強できない日もあるだろう。ありきたりな言葉だけど、やっぱり最後まで諦めず、強い気持ちで戦い続けた人に結果はついてくると思う。強い気持ちを持って若い自分を鍛えよう。

HRDAYの思い出

11HR【浜名湖パルパル】

私たちのクラスは、パルパルに行きました。友達といろいろなアトラクションに乗って、とても楽しかったです。普段の学校生活では見られない友達の一面があって、友達との仲がより深まったと思います。楽しい一日でよい思い出になりました。

12HR【浜名湖パルパル】

12HRはラウンドワンに行く予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でパルパルに行くことになりました。クラスで班に分かれて半日楽しみました。中には、十回以上も四次元というジェットコースターに乗った人もいました。すごいですね。HRDAYを通して、クラスの仲がより深まったと思います。

13HR【浜名湖パルパル】

13HRは、浜名湖パルパルに行きました。始めに集合写真を撮ってクラスの親睦がより深まりました。その後の自由時間では各個人で楽しめていたと思います。アトラクションに乗って悲鳴を上げたり、先生方を探す旅に出てパルパル内を歩き回ったりして、とても充実し、良い思い出をつくれました。

14HR【浜名湖パルパル】

14HRは、浜名湖パルパルに行きました。午前・午後ともに自由行動をとり、グループごとアトラクションやゲームセンター等で楽しみました。当初の予定とは異なり、成功するか心配でしたが、時間を忘れるほど楽しめました。クラスの仲がより深まりさらに雰囲気のいいクラスになりました。みんなの協力で問題なく、楽しいHRDAYとなりました。

15HR【浜名湖パルパル】

15HRは、パルパルに行きました。ほとんどのクラスがパルパルに行きましたが、貸し切り状態で時間いっぱい遊ぶことができました。各々仲の良い友達とさまざまなアトラクションに乗り、とても楽しかったです。おみやげを買ったり、クラスの集合写真を撮ったりと、とても良い思い出を作ることができました。

16HR【浜名湖パルパル】

16HRでは、浜名湖パルパルに行きました。新型コロナウイルスの感染拡大により、多くのクラスが同じところに行きましたが、グループの人たちと楽しめていた様子でした。バスの中では、普段はあまり話さないような人とも話していて、とてもにぎやかでした。中間テストの疲れを吹きとばす、笑顔あふれる一日になりました。

17HR【竜洋海洋公園】

17HRは竜洋海洋公園へ行きました。午前中には、事前に予約しておいた体育館でドッジボールやバスケをして遊びました。ドッジボールではボールを譲り合う姿もありました。午後は、主にカヌー体験をしました。このような機会はあまり無いと思うので、実現できて良かったと思います。本当に最高の一日になりました。

18HR【浜名湖パルパル】

私達はクラス皆でパルパルに行きました。今年はコロナウイルスの影響で色々な制限があり、初めに計画した所には行けませんでしたが、それぞれ友達とアトラクションに乗ったり、お昼ご飯を食べたりと楽しく一日過ごせたので良かったです。HRDAYのあとのクラスの雰囲気はより明るくなりました。

芸術鑑賞会

◇芸術鑑賞会を開催しました◇

11月11日㈭

古典芸能（能）「船弁慶」
主演：長谷川晴彦

本校第一体育館にて令和３年度芸術鑑賞会を実施しました。

本年度は、コロナ禍ということもあり、当初予定の生涯学習センターでの全校鑑賞から体育館とZoomによる教室棟での鑑賞を、前半・後半入れ替えの形で行いました。

「能」の舞台としては、劇場には及ぶところではありませんが、長谷川先生に直前まで演目から舞台設営まで調整いただき、間近で迫力のある舞台を拝見させてもらうことができました。全編通しでライブ鑑賞ができなかったことは残念ですが、真の古典芸能に触れる心に残る体験となりました。

「古典芸能を鑑賞して」

総務委員長　21HR　**羽切佑太郎**

今回の芸術鑑賞会で、僕は初めて「能」というものを鑑賞しました。正直なところ、今年の芸術鑑賞会が古典芸能だと聞いたとき、能には全く興味がありませんでした。そのため、あまり関心が湧かなったのが本音です。しかしその一方で、初めて生で観ることが出来る能は、一体どんなものなのだろう、という好奇心もありました。

そんな心持ちで芸術鑑賞会当日を迎え、実際に能を生で観てみると、その迫力溢れる演技や演奏に衝撃を受けました。舞台が進行するにつれて、今まで味わったことのないような世界に吸い込まれていくような感覚になっていきました。普段観る映画などとは違い、歴史や伝統を肌で感じられるところも、能の大きな特徴だと思います。それら一つ一つの丁寧な動き、迫力のある演技、演奏などが、能が昔から現代に至るまで多くの日本人に愛され続けてきた理由なのだと感じました。

また、僕は今回能を披露してくださった長谷川先生の言葉の中で、「未来は、過去と現在の延長線上にある」という言葉が心に残りました。今回の能の鑑賞のように、過去の出来事を学んだり、自分の過去の失敗から逃げずにそこから学ぶことにより、成長していくことが、未来に繋がっていくのだと思いました。

今回の能楽の鑑賞から様々なことを学ぶことが出来ました。この学びをこれからの普段の生活に活かし、実践していきたいです。

「芸術鑑賞会を終えて」

22ＨＲ　西澤梓希

私は、今回の芸術鑑賞会で生まれて初めて能楽を生で鑑賞しました。今までは、小学校の時に能楽の先生が来校して少しお話を聞いたり、日本史の授業で触れた程度の知識しかありませんでした。

しかし、今回生で舞台を観ることが出来て、その大迫力にとても驚きました。大きな動作や力強い発声には心を奪われました。このような体験から、今回の芸術鑑賞会を通して、能楽に対して興味が湧きました。自分の世界観が広がるとても良いきっかけになりました。

長谷川先生のお話の中で私の中に印象深く残っている言葉があります。それは、「過去と現在の二点をつないだ先に未来がある」というものです。これまでの私は、未来の結果にばかりこだわりを持ってしまっていました。ところが、この言葉により、未来を変えたければ今の行動を変えなければいけないと感じました。私には行きたい志望大学がありますが、今の学力ではとうてい足りません。英語が得意ではないからです。英語の週テストで一桁のことも多いという現状です。どうにかしようと勉強をしてはいますが、結局は自分のやり方を変えられずにいました。英語を一年生の頃からしっかりやらなかったという過去は変えられませんが、今を変える努力をすることで未来が変わると信じて前向きに取り組んでいきたいと思うようになれました。

「過去と現代をつないだ先に未来がある」という言葉をポジティブに捉えて、残り一年という長いようで短い高校生活を未来のための有意義な時間にしていきたいと思います。

体育大会

「体育大会を終えて」

23ＨＲ　鈴木涼太

昨年度の体育大会は、新型コロナウイルスの流行のため、多くの制限の中で開催されました。今年度も同じように感染対策をしながら、様々な工夫と多くの方々の協力のお陰で無事開催することができました。応援席や招集場所を変更したり、応援の仕方にも制限があり、例年通りに盛り上がるかどうか直前まで不安でいっぱいでした。けれども、新しく加わった競技や感染対策をしっかり徹底できる団体に与えられるwithコロナの得点などにより、制限下でも大いに盛り上がることができた一日になりました。縦割りの色ごとにハチマキを用意して団結力を高めるなどの工夫も様々なところに見られました。

当日は朝から天気がはっきりせず、進行がどうなることかと心配しましたが、何とか無事最後まで競技を終了することができました。来年度はコロナも収まり、もっと盛り上がることが出来る体育大会を作り上げていきたいです。

今回、体育大会の規格や運営、準備を通じて協力してくださった先生方や多くの方々、本当にありがとうございました。

体育大会結果

《ＨＲ対抗の部》

●総合順位

優勝　25ＨＲ　337点
第２位　14ＨＲ　291点
第３位　33ＨＲ　280点

○長縄跳び

優勝　25ＨＲ　275回
第２位　38ＨＲ　253回
第３位　36ＨＲ　219回

○ＨＲ対抗リレー

１年男子
優勝　13ＨＲ　2分43秒76
２年男子
優勝　23ＨＲ　2分41秒29
３年男子
優勝　33ＨＲ　2分39秒34
１年女子
優勝　15ＨＲ　1分35秒43
２年女子
優勝　21ＨＲ　1分35秒24
３年女子
優勝　36ＨＲ　1分35秒85

《縦割り（色別）対抗の部》

●総合順位

優勝　青（４組集団）756点
第２位　緑（５組集団）704点
第３位　黒（１組集団）689点

○綱引き

優勝　赤（６組集団）
第２位　黄（２組集団）
第３位　黒（１組集団）

○男女混合縦割りリレー

優勝　青（４組）4分07秒84
第２位　紫（３組）4分08秒60
第３位　桃（７組）4分15秒93

○追いかけっこ玉入れ

優勝　赤（６組集団）
第２位　桃（７組集団）
第３位　青（４組集団）

《個人の部》

○100ｍ走　男子
優勝　柴田　優作　12秒19
３年連続（33ＨＲ野球部）

○100ｍ走　女子
優勝　永井　咲帆　12秒97
（31ＨＲ無所属）

○200ｍ走　男子
優勝　竹内　遥哉　27秒12
（25ＨＲバスケ部）

○200ｍ走　女子
優勝　小﨑　凪紗　31秒59
（31ＨＲ陸上競技部）

○800ｍ走　男子
優勝　伊藤　竜成　2分17秒45
（28ＨＲテニス部）

○400ｍ走　女子
優勝　福田　妃咲　1分12秒01
（33ＨＲ陸上競技部）

○80ｍハードル走　男子
優勝　原野　俊輝　11秒91
（33ＨＲ陸上競技部）

○80ｍハードル走　女子
優勝　渡邊　天愛　15秒14
（21ＨＲ野球部）

部活動近況

【野球部】

第74回秋季東海地区高等学校野球
静岡県西部地区大会
２回戦　掛川西９―８掛川工業
（延長11回）
決定戦　掛川西10―０浜松修学舎
（５回コールド）
※県大会出場

第74回秋季東海地区高等学校野球
静岡県大会
２回戦　掛川西３―０富士宮東
３回戦　掛川西６―５浜松商
準々決勝　掛川西９―10日大三島

【女子バスケットボール部】

令和三年度第74回全国高等学校
バスケットボール選手権大会
静岡県予選　10月17日(日)
一回戦
本校36―72袋井高校

【卓球部】

全日本卓球選手権大会
ジュニアの部　西部地区予選
男子シングルス
花村俊輔　ベスト32
県大会出場

全日本卓球選手権大会
ジュニアの部　静岡県予選
男子シングルス
花村俊輔　ベスト64

静岡県高等学校新人体育大会
卓球競技　西部地区予選
男子学校対抗
２回戦　本校３―１新居
３回戦　本校１―３浜松市立
順位決定１回戦
本校１―３浜松東
女子学校対抗
１回戦　本校２―３新居
男子シングルス
花村俊輔　ベスト24
県大会出場

【バドミントン部】

令和３年度　静岡県高等学校
バドミントン選手権大会
西部地区予選
初心者シングルス　第６位
県大会出場
辻野　美月

令和３年度　静岡県高等学校
新人大会バドミントン競技
西部地区予選
学校対抗の部　第７位
県大会出場
川村　美優　中根　璃胡
丹野　愛里　船橋　未梨
松下　陽波　永松　志保
中川　京美　佐野　心咲

令和３年度　静岡県高等学校
新人大会バドミントン競技
西部地区予選
個人戦　ダブルス　第11位
県大会出場
辻野　美月　田島　知夏

令和３年度　静岡県高等学校
新人大会バドミントン競技
ベスト８
辻野　美月　田島　知夏

【英語部】

九月十一日(土)
第七十三回静岡県高等学校
英語スピーチコンテスト　西部大会
三位入賞　二年　大井葉羽瑠
十月十六日(土)
第七十三回静岡県高等学校
英語スピーチコンテスト　県大会
六位入賞　二年　大井葉羽瑠
タイトル「What is Different?」

【演劇部】

八月四日
夏の演劇フェスティバル公演
▼亀尾　佳宏 作
『お葬式』上演
十月二十四日
第六十一回静岡県西部高等学校
演劇協議会発表会
▼亀尾　佳宏 作
『お葬式』上演　特別賞受賞
〈今後の予定〉
二月十二日
三校合同演劇公演
（小笠・常葉菊川・掛川西）
於 美感ホール

【自然科学部】

7月
高校生バイオサミット
一次選考通過
・カケガワザクラから分離した酵母のアルコール発酵能
・ナラ枯れ病木からのセルロース分解酵素の分離
・ヤブキタと在来種のチャノキの類似性
・希少種ベッコウトンボの生息地の特定を目指して

10月
静岡県高等学校生徒理科研究発表会
西部支部大会　優秀賞
・希少種ベッコウトンボの生息地の特定を目指して
（特異性を持つプライマーの設計）
静岡県高等学校生徒理科研究発表会
県大会　最優秀賞
・希少種ベッコウトンボの生息地の特定を目指して
（特異性を持つプライマーの設計）
環境ＤＮＡ学会第四回大会　優秀賞
・希少種ベッコウトンボの生息地の特定を目指して
（特異性を持つプライマーの設計）

11月

令和３年度　行事予定（3学期）

1月 日	曜	行事	1	2	3
1	土	元日 (閉庁)			
2	日				
3	月				
4	火	西高プレテスト(希望者)			
5	水	西高プレテスト(希望者)			
6	木	始業式　新春かるた会① 1・2年実力養成テスト 3年授業③④⑤	テH	始業式 テH	3H
7	金	新春かるた会②	6	6	6
8	土	土曜講座①			
9	日				
10	月	成人の日			
11	火		6[7]	6[7]	6[7]
12	水		6C	6C	6C
13	木		6H	6H	6H
14	金	3年共通テスト直前指導 科学技術・数学特別講座③	6	6	3H
15	土	大学入学共通テスト 1・2年ベネッセ総合模試			
16	日				
17	月	共通テスト自己採点	7	7	採
18	火	月曜日課(⑤⑥⑦①②③④) 3年特別時間割	7	7	4
19	水		6C	6C	4
20	木	授業順(⑤⑥①②③④H)	6H	6H	4
21	金		6	6	4
22	土				
23	日				
24	月		7	7	4
25	火		6[7]	6[7]	4
26	水	授業順(①②⑤⑥③④CT)	6C	6C	4
27	木		6H	6H	4
28	金		6	6	4
29	土	2年共通テスト早期対策模試			
30	日				
31	月	授業順(③④⑤⑥①②)	7	7	7
備考					

2月 日	曜	行事	1	2	3
1	火	3年家庭学習・2月講座開始 2年生修学旅行	6[7]	6[7]	家
2	水		6C	6C	家
3	木		6H	6H	家
4	金		6	6	家
5	土				
6	日				
7	月		7	7	家
8	火	理数科課題研究発表会(審査)	6[7]	6[7]	家
9	水	短縮40分(①②⑤⑥) 探究発表会(1・2年合同) 3年登校日	4 2C	4 2C	登H
10	木		6H	6H	家
11	金	建国記念の日			
12	土	1・2年駿台模試(希望者)			
13	日				
14	月	40分授業×7	7	7	家
15	火		6[7]	6[7]	家
16	水		6C	6C	家
17	木	大学教官出張授業(1年理数科)	6H	6H	家
18	金		6	6	家
19	土	土曜講座②			
20	日				
21	月		7	7	家
22	火		6[7]	6[7]	家
23	水	天皇誕生日			
24	木	学年末テスト	テスト		家
25	金	卒業式準備			家
26	土				
27	日				
28	月	2・3年卒業式予行 同窓会入会式	テスト		登H
備考					

3月 日	曜	行事	1	2	3
1	火	卒業式		卒 H	H
2	水	学年末試験 学校等準備	テスト		
3	木	入学者選抜(学検) 【生徒家庭学習】	学検		
4	金	入学者選抜(面接・採点) 【生徒家庭学習】	面接 採点		
5	土				
6	日				
7	月	入学者選抜(採点) 【生徒家庭学習】	採点		
8	火	特別日課(テスト返却) 2年個人写真撮影 立会演説会			
9	水	特別日課(テスト返却) 1年個人写真撮影			
10	木	40分授業(①②③④)	4	4	
11	金	40分授業(①②③④)	4	4	
12	土				
13	日				
14	月	40分授業(①②③④)	4	4	
15	火	合格者発表 【生徒家庭学習】	合格発表		
16	水	40分授業(③④⑤⑥) 1・2学年会計監査	4	4	
17	木	球技大会①			
18	金	球技大会②			
19	土				
20	日				
21	月	春分の日			
22	火	終業式・大掃除 合格体験談(2年)	終業式 H	2H	
23	水	追認試験			
24	木				
25	金				
26	土				
27	日				
28	月				
29	火				
30	水	離任式			
31	木				
備考					